


## 令和2年度 さいたま市立大戸小学校 学校関係者評価書

さいたま市立大戸小学校

学校関係者評価委員長 中島 隆一 

### 1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 11名

(2) 実施回数 計3回 書面会議1回、通常会議1月7日(土)、2月4日(木)

### 2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

令和2年度の学校教育目標「かしこく やさしく たくましく」、めざす学校像「笑顔あふれる大戸小」、重点目標「明るく、自ら考え、落ち着いて学習に取り組む児童の育成」を中心に学校関係者評価委員会で評価を行った。

#### ○教育活動について

- ・コロナ禍のため、廊下からではあるが子どもたちの様子や学校の雰囲気を見ることができた。
- ・落ち着いて、集中して学習に取り組んでいた。
- ・廊下の掲示物等を通して、子どもたちが頑張っている様子を感じられた。また、先生方が子どもたち一人ひとりを大切にみていることを感じ取れた。
- ・工事をしているが、子どもたちは落ち着いて授業を受けていた。
- ・荷物が多く、ランドセルが重いと感じている。これからタブレットの時代になるので荷物の軽減を工夫してほしい。
- ・自然の教室、修学旅行が中止になってしまったので、その代わりとなるものを検討してほしい。

#### ○アンケート集計結果について

- ・コロナ禍で、2カ月にわたる臨時休業期間、分散登校と大変な1年ではあったが、子どもたちの評価は、昨年と同様高い結果となっており、安心した。
- ・「学校へ行くのが楽しい」と回答した子が87%と高い割合ではあるが、残りの13%にも意識をして指導にあたってほしい。「時間を守って生活している」と回答した子が91%と高い割合である。これはとても大切なことなので、今後も時間を意識した指導の継続をお願いしたい。「元気にあいさつをしている」と回答した子が87%と高いが、教員は55%、保護者は75%となっていることから、子どもたちはあいさつをしていると思っているが、それが周りの人には伝わっていないと考えられる。

#### ○家庭、地域との連携について

- ・子どもたちの生活を見ていると睡眠時間がとれないのではないかと感じている。夜遅くならないよう家庭も工夫が必要である。
- ・挨拶は社会人としての基本である。地域のパトロールの人たちへ進んであいさつができるよう、指導を継続してほしい。
- ・登下校の歩き方は気になる。特に下校時は道路に広がっている様子を見かける。同じ言葉で同じ内容で何度でも繰り返し、指導をお願いしたい。
- ・おやじの会も奉仕作業を中心として何かできることがあれば声をかけてほしい。

### 学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・コロナ禍の中、今年度は、話し合い活動や音楽活動等の指導方法に様々な制限が加わるが多かった。来年度からのGIGAスクール構想として、タブレットPCが一人1台ずつ導入されることを受けて、ICTを活用した主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進める。
- ・教職員があいさつの模範を示し、代表委員会等のあいさつ運動の取組を通してリーダーとフォロアーの育成を図る。また、あいさつの大切さを学ばせ、自ら進んであいさつができる児童の育成を図る。
- ・来年度はコミュニティスクールの準備委員会を立ち上げ、令和4年度の全面実施に向けての基盤作りを行う。
- ・登下校時の交通安全について、学級での指導及び定期的な下校指導を継続する。
- ・今年度は自然の教室、修学旅行ともに現地の方をお呼びし、体験活動を実施した。また、おやじの会の協力のもと6年生のお楽しみ会を開催する。来年度は行事等の見直しを図り、コロナ禍でできる取組を実践する。

さいたま市立大戸小学校長 長島 クミ子 